

需給改善のための「入口・出口対策」の実施について

2026年10月13日
一般社団法人 J ミルク
第 2 回 理 事 会

I 対策の基本的な位置づけ

- (1) 2026年6月17日に公表した「持続可能な酪農乳業産業の確立に向けた需給改善対策」においては、全国の関係者による「入口・出口対策」と、「酪農乳業需給変動対策特別事業」による「在庫削減対策」を適切に組合せて実施することにより、脱脂粉乳の需給ギャップ(約30万トン)の解消に取り組むこととし、特に、「入口・出口対策」については、代表的な事項(例)を示した上で、これらの具体化に向けて議論を加速することとされた。
- (2) 以降、戦略ビジョン推進特別委員会で議論を重ね、「入口・出口対策」の具体的な取り組み方向や内容等について、今般、「別添1」のとおり整理を行ったところであり、今後、関係者においては主体的に、必要な肉付けや財源の確保等を行いながら、対応可能な取り組みについて実践に移していくこととする。
- (3) なお、「別添1」はあくまで現段階で想定される取り組みを記載したものであるため、引き続き、多角的な観点から、追加的な対策の要否等について検討を継続する。

II 留意事項

- (1) 「入口対策」のうち、生乳の「需要期生産」と「不需要期の生産抑制」は、表裏一体の関係で一体的に取り組むべきものであるため、「季節別の需要に応じた生乳生産」と改めて位置付けた上で、そのメリットや地域の実情等に応じた取り組み例等について、「別添2」のチラシの配布等により、今後も各生産者に対する周知を図っていく。

(注:乳業者に対しては、「別添3」のチラシにより、需給変動対策基金(「緊急対策金」の拠出を含む)への協力を要請しているところ。)

- (2) 特に、「不需要期の生産抑制」のための早期乾乳を含む具体的な手法については、技術的課題や効果についての検証等を含め引き続き検討していく。
- (3) 「出口対策」については、生乳等の取引に関する当事者間で取り組むべき事項も多く含まれていることから、当事者間での自発的な協議を基本に引き続き検討していく。
- (4) 「入口・出口対策」のうち、「共助」(全国的な協働の取り組み)については、必要に応じて、国へ支援を要請する。

対策名		取組項目	取組主体	取組内容	備考	
啓発普及	対生産者	季節別の需要に応じた生産	Jミルク/全国団体/地域団体等	・全国段階において、季節別の需要に応じた生乳生産(需要期と不需要期の偏差をなるべく縮小すること)の必要性和メリットを啓発するためのチラシを作成し、指定団体等を通じて生産者に配布	2026月9月以降実施	
	対乳業者	需給変動対策基金への協力		・全国段階において、需給変動対策基金への協力(「緊急対策金」の拠出を含む)が、国内で牛乳乳製品の製造販売行う全ての乳業者にメリットがあることなどの啓発するためのチラシを作成し、乳業関係の団体等を通じて乳業者に配布	2026年8月実施済	
	対酪農乳業関係者	需給情報の発信		・Jミルクは、定期的な「需給見通し」の公表に加えて、需要期及び不需要期の需給状況について早めの情報発信・共有(連絡会の開催、文書の発信等)に務め、生・処による適時適切な「入口・出口対策」の推進を支援		
	対消費者	消費者に対する酪農乳業の理解促進のための新たなアプローチ	関係団体/Jミルク	・需給改善のための取り組みの重要性(乳製品需給(脱脂粉乳在庫増等)の背景や消費拡大の必要性等)について、関係団体が連携し、マスコミや新たな媒体などを活用して、消費者に対して直接的に訴求する手法を検討・実施		
入口対策	季節別の需要に応じた生乳生産の推進	啓発普及	優良事例の共有	中酪/全国連/指定団体等	・地域の実情に応じた優良な取組事例の収集・啓発普及(全国連も暑熱対策等の取組データ等を提供するなど連携・協力)	2026年度暑熱対応事業において現地調査等を実施予定
		需要期における安定供給の推進	飼養環境の改善、受精卵移植(ET)の活用、春産みの増加等	生産者集団/指定団体等	・補助事業を活用した取り組みを各地域で実施するとともに、必要に応じて指定団体、会員組織等の段階で独自事業を実施。また、2027年度に向けては、必要に応じて事業の拡充等を国に要請	生乳暑熱対応推進緊急対策
		不需要期の生産抑制	問題認識の醸成(季節別の需要に応じた取り組みの推進)	生産者集団/指定団体等/乳業者/飼料会社等/関係団体	・需要期の生産増と不需要期の生産抑制をセットで取り組むことが前提 ・特に、搾乳量が伸びやすい不需要期における過剰な生産とならない取り組み(特に年末・年始や年度末・年度初めにおける処理不可能乳の発生を防ぐこと)の必要性等の問題意識の醸成を徹底 ・乳業者・飼料会社等・関係団体も一体となって支援ができる仕組みを構築	
			早期乾乳・全乳ほ育等	生産者集団/指定団体等	・不需要期(特に年末・年始や年度末・年度初め)の早期乾乳(例:乾乳期間60⇒75日間)・全乳ほ育等による生産抑制の支援策について、需給状況を見極めつつ検討し、必要に応じて実施(国への対策の要請等を含む)	国産牛乳乳製品の需要拡大・競争力強化対策事業(不需要コア期需給安定緊急対策事業)
		季節別乳価の設定・拡充		生産者集団/指定団体等	・既実施指定団体等は、2026年度も継続実施 ・必要に応じて、各指定団体において2027年度の実施(既実施生産者団体での拡充を含む)について検討、実施	
出口対策	牛乳でスマイルプロジェクトの下での業界一体的な需要拡大活動		全国の活動の充実	Jミルク/関係団体	・スマイルプロジェクトのメンバー拡大やメンバー間のコラボ等による需要拡大活動の取り組みを更に充実	国産牛乳乳製品の需要拡大・競争力強化対策事業(国産牛乳乳製品の需要拡大等事業)
			ポータルサイト内での「脱脂粉乳応援コーナー」の開設	Jミルク	・全国のスマイルプロジェクトのメンバーによる脱脂粉乳の需要拡大に資する取り組み(活用レシピ、新商品開発・販売、イベント開催等)を集約し、消費者や関係者に対して一元的に情報発信	
	LL牛乳、スキムミルクの活用促進	不需要期の子供食堂・学校等向け配布	指定団体等/乳業者/関係団体/Jミルク	・必要に応じて、指定団体と取引乳業者等の直接協議、スマイルプロジェクトの下でのJミルクの仲介による関係者間のコラボ等により、既存牛乳市場を阻害しない、不需要期限定の活動を実施		
		防災備蓄・災害救援等としての活用促進	全国連/指定団体等/乳業者/包装メーカー等/関係団体/自治体	・各自自治体等の防災備蓄や家庭内備蓄の対象品目としてのLL牛乳等の活用促進(要請・PR活動を推進) ・離島等における学校給食用牛乳の一環での防災備蓄用LL牛乳の活用拡大 ・被災地等への災害支援物資としてのLL牛乳の活用を推進(プッシュ型供給を含む)		
	生乳使用率の向上	不需要期における新規取り組み	全国連/指定団体等/乳業者等/Jミルク	・乳飲料等の製造メーカーなどの新規企業への生乳使用の働きかけ(国産脱脂粉乳との置換えとならないよう留意) ・乳以外の原料を使用している製品・ジャンル(食品産業)に対するアプローチ ・上記の対象者を含む、新メニュー・新商品の開発等に対する支援策について検討		
	国産チーズの生産奨励	消費拡大に資する取り組み	指定団体等/乳業者	国産チーズの消費拡大について、補助事業を活用しつつ推進するとともに、必要に応じて、取引当事者間で協議し、現在の補助事業(チーズ生産奨励のあり方等)についても検証 また、国産MPC(乳タンパク濃縮物)・WPC(濃縮ホエイ)による輸入乳製品の需要代替等を推進するとともに、必要に応じて取引当事者間で協議し、国の支援等についても検討	国産牛乳乳製品の需要拡大・競争力強化対策事業(国産チーズ生産奨励等事業)	
	国産たんぱく質による置換え	国産チーズ副産物等の有効活用	乳業者/指定団体等			
	国産牛乳・乳製品の販売促進	新製品開発・販促活動・輸出促進等	乳業者/全国連	各乳業会社における、国産生乳を使用した新製品の開発並びに、国産牛乳・乳製品の販促活動の強化(引き続き取り組む)		

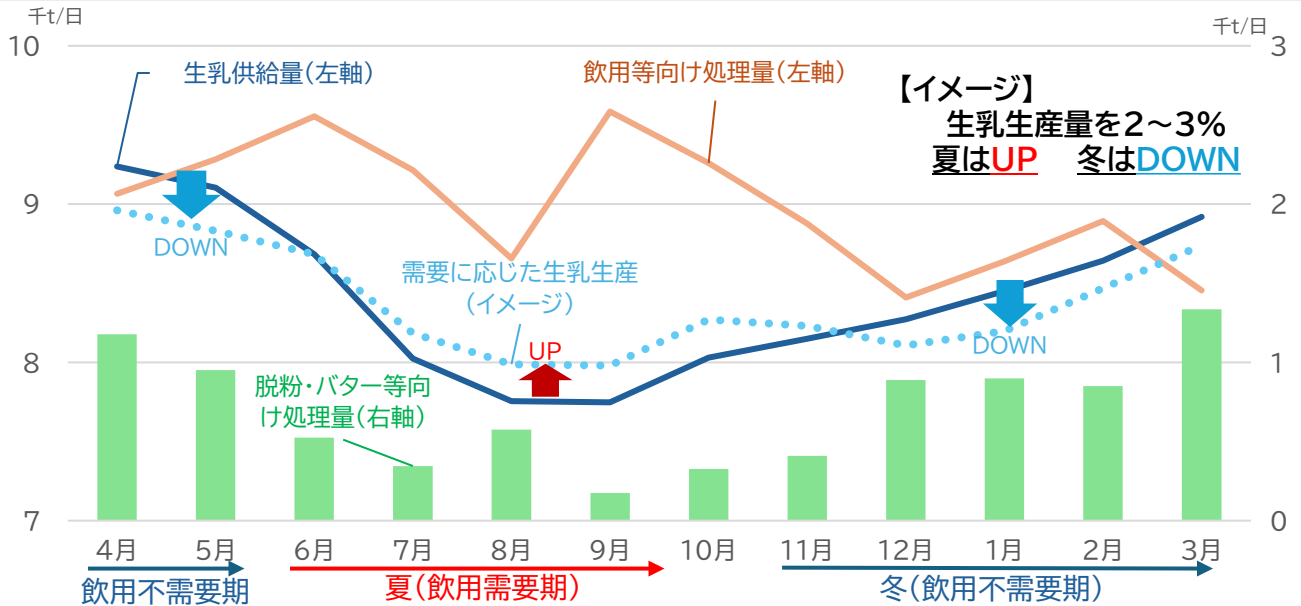
季節別の需要に応じた生乳生産

に取り組みましょう！

～「夏の飲用向けへの安定供給」と「冬の円滑な乳処理」を目指して～

牛乳消費量の減少等により、脱脂粉乳の在庫が積み上がる傾向が続いており、不需要期(需要が落ち込む時期)の安定的な生乳処理が年々困難になってきています。

都府県の生乳生産量・飲用牛乳等、脱脂粉乳・バター等向け処理量の季節変化(2025年度)



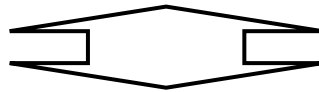
「季節別の需要に応じた生乳生産」のメリット

[飲用不需要期]

- ・脱脂粉乳在庫量の増加の抑制→適正な価格形成の実現に寄与します。
- ・都府県では、飲用不需要期のプール乳価の維持及び安定的な生乳処理につながります。

[飲用需要期]

市場への安定供給により、飲用需要がしっかり維持されます。



「季節的な需要に応じた生乳生産」を行わないデメリット

[飲用不需要期]

- ・脱脂粉乳在庫量が年々増加するなか、更なる在庫の積み増しとなり、最終的には適正な価格形成の阻害要因となります。
- ・都府県では、乳製品に処理できる工場が少なく、遠隔地に運ぶための輸送費や委託加工料等により、プール乳価の低下要因となる場合があります。
- さらに、乳製品工場数や処理能力が年々減少しており、「年末・年始」や「年度末・年度はじめ」といった学乳休止期間などに、処理不可能乳が発生する可能性があります。

[飲用需要期]

市場への供給不足により、他の飲料に売り場を奪われ、需要そのものが縮小します。

みんなで、季節的な需要に応じた生乳生産に取り組みましょう！

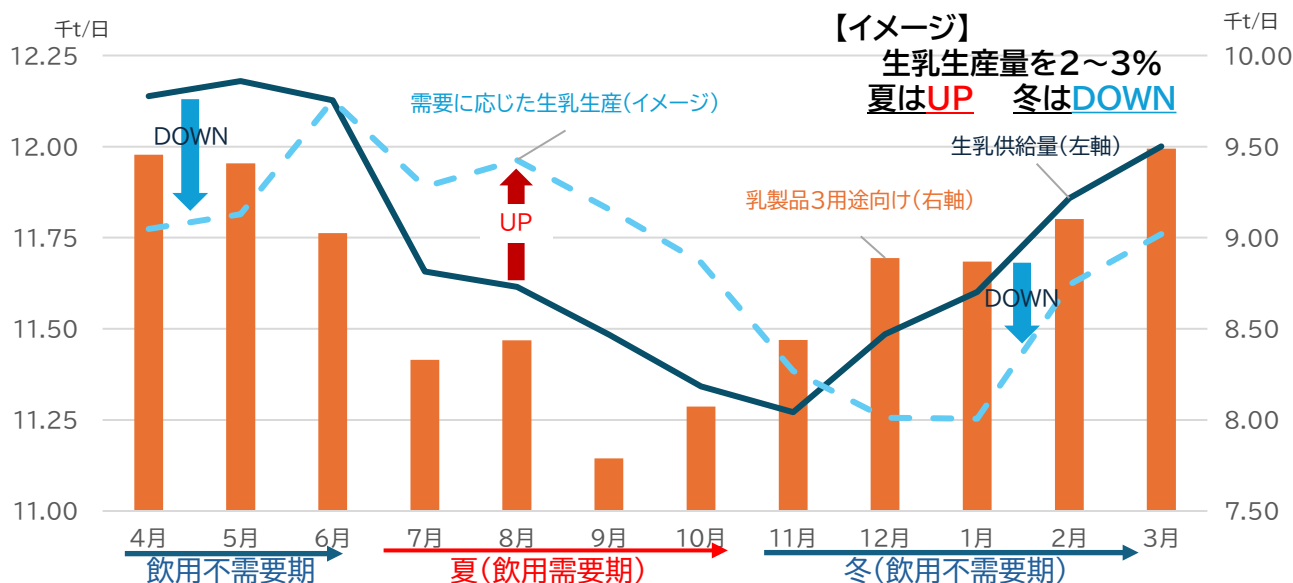
季節別の需要に応じた生乳生産

に取り組みましょう！

～「夏の飲用向けへの安定供給」と「冬の円滑な乳処理」を目指して～

牛乳消費量の減少等により、脱脂粉乳の在庫が積み上がる傾向が続いており、不需要期(需要が落ち込む時期)の安定的な生乳処理が年々困難になってきています。

北海道の生乳生産量と乳製品3用途向け処理量の季節変化(2025年度)



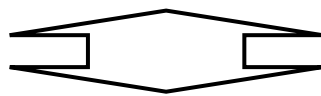
「季節別の需要に応じた生乳生産」のメリット

【飲用不需要期】

- ・脱脂粉乳在庫量の増加の抑制→適正な価格形成の実現に寄与します。
- ・北海道では、飲用不需要期のプール乳価の維持及び安定的な生乳処理につながります。

【飲用需要期】

市場への安定供給により、飲用需要がしっかり維持されます。



「季節的な需要に応じた生乳生産」を行わないデメリット

【飲用不需要期】

- ・脱脂粉乳在庫量が年々増加するなか、更なる在庫の積み増しとなり、最終的には適正な価格形成の阻害要因となります。
- ・北海道では、乳製品の製造ラインの許容量を超える可能性があります。特に学校給食が休みになる「年末年始」や「春休み期間(年度末・年度初め)」などは、行き場をなくした生乳の処理が追いつかなくなる恐れがあります。

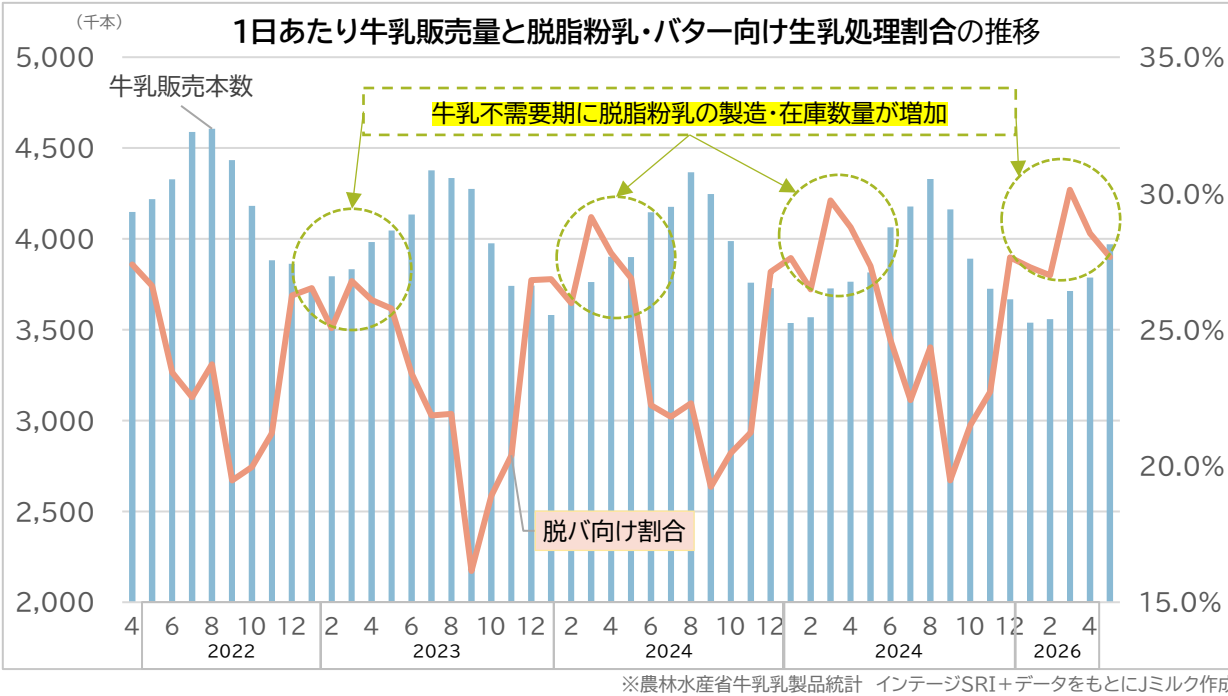
【飲用需要期】

市場へ安定して商品を提供できなくなると、他の飲料に売り場を奪われてしまい、需要の減少を招きます。こうした事態は、最終的に北海道のプール乳価を維持をすることを困難にします。

みんなで、季節的な需要に応じた生乳生産に取り組みましょう！

「需給変動対策特別事業」へのご参画と 「緊急対策金」へのご協力をお願い

 **牛乳消費量の減少が脱脂粉乳在庫の増加につながっています**



このままでは、生産基盤や飲用牛乳市場に悪影響が及び、我が国酪農乳業の持続可能な発展を阻害する可能性があります。

この危機的な状況を乗り越えるには、全国すべての酪農乳業関係者の 協調した次の対策が必要です！

 **「酪農乳業需給変動対策特別事業」と「緊急対策金」にご協力を！**
(生産者も同額を負担する「1対1」の協調体制)

項目	内容
拠出金単価	現行の「需給変動対策金」15銭 新たな「緊急対策金」15銭 } 計 30銭/kg (緊急対策金の対象期間は2026年10月～28年3月まで)
緊急対策の実施期間	2026年10月 ～ 2028年3月 (期間限定の集中対策) ※2028年度以降の扱いについては、2026年度下半期から検討を開始します。
用途と目標	脱脂粉乳の新規需要創出(飼料向け、調製品置換え、輸出向け)の取り組みを拡充し、毎年度末の脱脂粉乳在庫を「8万トン未満」に抑制します。 (併せて、「入口(生産)」「出口(需要)」対策も進めていきます。)

乳業者にとって2つの大きなメリットがあります



「飲用牛乳市場」の安定

全国の関係者による生乳の需給調整機能(余剰時の適切な乳製品加工等)が維持され、牛乳の価格崩壊を防ぐなど、健全な取引環境の確保が図られます。



生乳調達リスクの回避

全国の酪農生産基盤の維持を通じて生乳の安定確保が図られ、需要期における牛乳販売上のチャンスロス回避につながります。



なぜ今、緊急的な対応が必要なのか？

このままだと…

①

・ 脱脂粉乳の在庫が増加

②

・ 「乳価引下げ」や「減産」を求める圧力が上昇

③

・ 酪農家の生産意欲や収益性が低下し、減産方向へ

④

・ 「生乳の安定調達」が困難となり、乳業事業が停滞

最終的に**生乳を調達して製品を製造・販売する乳業者の皆様が最も深刻な影響**を受ける可能性があります



共に「日本の牛乳」を守り抜きましょう！

- ・ 現在、多くの生産者・乳業者の皆様にご賛同いただき、基金に拠出をいただいております。
- ・ しかし、誰もが安心して経営を継続できる強固なセーフティーネットを構築するためには、**未だ本事業に同意されていない乳業者のご参画**、そして**追加の「緊急対策金」へのご協力**が不可欠です。
- ・ 皆様のご決断が、持続可能な酪農乳業産業の確保につながります。本事業の趣旨にご賛同いただき、ご参画いただきますよう、心よりお願い申し上げます。

酪農乳業需給変動対策基金への協力事業者や必要な手続きは、Jミルクウェブサイト公表しております。
<https://www.j-milk.jp/gyokai/safety-net.html>

お問い合わせ先：(一社)Jミルク 生産流通グループ TEL 03-5577-7493